昭和六年七月二十七日　揚場町の第六臨時教員養成所寄宿舍を小石川區久堅町七十四番地に移轉した。

昭和六年十二月二十八日　附屬幼稚園規則中第二部幼兒保育料金額に改正を加へた。

昭和七年四月十五日　下村三四吉東京女子高等師範學校名譽教授の名稱を授けられた。

昭和七年六月十三日　東伏見宮大妃殿下から御歌を下賜された。

外國ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
よむへし
然れとも
やまゝをゝ　ゆ　ゆ　ゆ
みちなりすき

周子

第八章　東京女子高等師範學校時代（其ノ三）

昭和七年七月—九年三月

昭和七年十一月二十九日　東伏見宮大妃殿下の台臨を仰いで、本校開校記念式並びに附屬高等女學校創立五十年祝賀式を新營の徽音堂に於て擧行した。

午前九時四十分に着御、直ちに御休憩室に入御、來賓の高官及び校長以下職員に拜謁を賜はつた。次いで校長から附屬高等女學校の『創立五十年』を奉呈し、殿下から金一封を賜はつた。

午前十時式場に臨ませられた。式場の正面中央には殿下御染筆の『徽音堂』の額が掲げられてある。式の次第は次ぎの通である。

一　敬禮
二　校歌（「みがかずば」）合唱
三　昭憲皇太后並ニ皇太后陛下ノ令旨捧讀
四　學校長式辭
五　文部大臣祝辭
六　東京女子高等師範學校卒業者總代祝辭

前　篇

七　附屬高等女學校卒業者總代祝辭

八　東京女子高等師範學校生徒總代並ニ附屬高等女學校生徒總代祝辭

九　國　歌（「君が代」）合唱

十　敬　禮

式が終つて御小憩の後、午前十一時から本校及び第六臨時教員養成所生徒・附屬高等女學校生徒・同小學校兒童の體操及び遊戯を御覽あそばされた。

合同體操　　本校本科及養成所・附屬高等女學校生徒・附屬小學校兒童

行進遊戯（ミリタリマーチ）　　附屬高等女學校本科一・三・四・五學年生徒

競爭遊戯
- 大球轉し　各部尋常科第一學年男女兒
- 飛行船送り　各部尋常科第二學年男女兒
- 脚切競爭　各部尋常科第三學年男女兒
- 棒倒し　第二・三部尋常科第四學年以上男兒
- 綱引　各部尋常科第四學年以上女兒

體操　　本校本科及養成所生徒

行進　　全校生徒・兒童

東京女子高等師範學校行進歌

一（全校生徒・兒童・幼兒）

花の八千種匂ふごと　　わかきをさなき打集ふ

天つ光のさしそひて　　我等が庭ぞ榮え行く

二（本校及養成所生徒）

國の榮の基なる

敎の道を其のわざを

學び究めん明暮に

重き使命を思ひつつ

三（高等女學校生徒）

展び行く御國目に新

新なる世にふさはしき

をみなたるべくいそしまん

たがひに手と手取り合ひて

四（小學校兒童・幼稚園幼兒）

力溢れて若竹の

空を衝くべく伸ぶるごと

日毎日毎に生ひ立たん

強く正しく且清く

五（全校生徒・兒童・幼兒）

たゆむことなく「みがかずば

玉もかがみもなにかせん」

いざや勉めんもろともに

尊き御旨身にしめて

午後一時三十分から東京音樂學校の職員・生徒の奏する音樂會に臨ませられた。

指揮　大塚淳

管絃樂　東京音樂學校生徒管絃樂團員　海軍軍樂隊員賛助

合唱　東京音樂學校生徒

伴奏　萩原英一

一　管絃樂

イプセン作戯曲「ペーア　ギユント」の第一スウート（作品四六）　グリーク作曲

前　篇

二　ソプラノ獨唱　黑澤貞子
　a. アヴェマリア　グーノー作曲
　b.「夜營及薔薇」中の夜營の歌　サンサーンス作曲
　c. ウインの森の物語　ヨハン シトラウス作曲

三　ヴァイオリン二重奏　清水澄
　二重奏曲　井上武雄
四　ピアノ獨奏　ヴィヴァルディ作曲
　G短調バラード（作品二三）　宮内鎭代子
五　獨唱及合唱（管絃樂伴奏）　ショパン作曲
　美しきエレン　ブルッフ作曲　ソプラノ　中村淑子　バリトン　秋月直胤

休憩

六　箏曲生田流　宮城道雄補
　秋韻　箏曲科生徒二十名
七　長唄　吉住小三郎外六名補導
　越後獅子　長唄科生徒八十名　囃子　望月太左吉外三名

右終つて五時半頃、殿下には御機嫌麗しく御還り遊ばされた。

昭和七年十二月二十八日　本校及び附屬幼稚園が現校舍及び園舍に移轉した。

本校本館及び講堂は昭和六年一月九日起工、昭和七年八月三十一日竣成した。

昭和八年十月　機關室の新營工事が竣成した。

昭和八年十二月　圖書閲覽室及び書庫の新營工事が竣成した。

昭和九年三月三十一日　附屬小學校が新校舍に移轉した。